

SPUR

ハロー! マヤ・ホーク

なにわ男子
ハッピー・ホリデー!

マッツとウィレムが
語る5000字

織田信成×フモフモ編集長
愛のスケート語り

シュプール
December 2019

<https://spur.hpplus.jp/>

12

「フツウじゃない」定番を探して

夜のスタンダード図鑑

新世代のモードなヒーロー、発表!

「やさしさに包まれる」
コート大全集

エモーショナル過ぎる
美容ギフトカタログ

別冊付録 24p

毎日のちょっとしたいいもの
よりぬき
スモール・グッド・シングス



SPURの新定番

一周回って
これが好き!



スケートボードはビバリーヒルズ店のスタッフが発案した“夢”のアイテム。描かれたのは南アフリカで創設された芸術家集団「アードモア」がデザインした、カレ「サバンナのダンス」の柄。ズールーの文化では、ヒョウはエスプリとユーモアを表すという。ラグジュアリーメゾンのエルメスが、ストリートのイメージの強いスケートボードを制作するという、面白さと懐の深さを感じさせるアイテム。素材はブナ材にメープル材の化粧仕上げ。車輪とボードをつなぐ輪留めはエルメスらしくレザーを使用。スケートボード (H60.4×W18.4×D9.6) ¥367,000/エルメスジャパン(エルメス)

それは、極めて私的なエルメス。
夢に“かたち”があるならば

**エルメス『夢のかたち
Hermès Bespoke Objects』展**

スペシャルオーダー部門がこれまで実現してきた、顧客の要望や夢に耳を傾け、数々のオブジェを展示。最高のクラフツマンシップを凝縮した夢あふれるアイテムがさまざまな仕掛けで楽しめる。11月1日(金)～17日(日) 東京都港区六本木6の2の31 六本木ヒルズ ノースタワー1・2F 10時～20時(最終入場19時30分) 無休 無料 予約不要 www.hermes.com

エルメスのスペシャルオーダー部門が、最高の技術で夢をかなえてきたオブジェが揃う、展覧会『夢のかたち Hermès Bespoke Objects』。個性あふれるスペシャルアイテム、アトリエの手仕事の結晶を、ひと足先に誌面で披露。夢の続きを追いかけて

photography: Masanori Akao (white STOUT) (p.104, p.106～p.107), Mana Kikuta (p.105)
 interview & text: Minako Norimatsu (p.105) text: Akane Watanuki (p.104, p.106～p.107)
 styling: Yui Nakamoto illustration: Debora Szpilman

アクセルさん、エルメスの“夢”ってどうやって作るのですか？

エルメスの社外から、あるいは社内でも生まれた“夢”を形にするスペシャルオーダー部門でデザインを手がける、アクセル・ドゥ・ボーフォール氏。アイデアの尽きない彼が、ルールにとられないルールを語ってくれた



Profile

幼い頃から海を愛し、船舶デザイナーとしてスタート。ヨットの内装のスペシャルオーダーにおけるアドバイザーを請け負ったのが、エルメスとの関わりへのきっかけ。8年ほど前よりエルメス社スペシャルオーダー部門のデザイン&エンジニアリングディレクターに

「驚くべきリクエストがたくさん寄せられるんですよ。ここで作るものは、単なる美しいオブジェではありません。その背後には大変な時間と労力が費やされており、そして何よりも気持ち込み込まれています。それぞれのアイテムは、一つのストーリーなのです」

こう語るのには、エルメス社のスペシャルオーダー部門、いわば「夢」実行委員会のデザイン責任者であるアクセル・ドゥ・ボーフォール氏。『エルメス』とはパリ郊外バンタンにある、元映画スタジオを改装した広々とした工房だ。この日、ある職人はスポーツカー「ブガッティ・シロン」の座席の革張りに取りかかり、また別の職人は、日本で展示するターニングの仕上げに奮闘していた。

パッションを顧客とシェアし、どんな夢をも形にしていこう

さて、スペシャルオーダーの受注からデザイン、制作まではどんなふうに進むのか？ まずは、二つのカテゴリーに分けて説明しよう。一つは、顧客からの特注。受注では、ルールがないのがルール。ご要望が具体的な場合にはそれを傾聴し、よりよいご提案をします。受注はわれわれではなく、各店舗の担当者が受けるんですが、一方オリジナルティがありつつ素材やデザインの詳細が漠然としている場合は、アイデアが生まれた経緯を理解し、お客さまのスタイルや人柄を知

ることに努めます。ですから服装を描写し、写真を撮らせていただくこともあるのです。そして、エルメス社側のアイデアを提案し、デザイン画を描き、模型やサンプルを作る。レーザーやトワ

ルもストックの流用ではなく、それぞれのニーズに合わせた特別な仕上



毎朝りんごを一つ持って散歩に出かける友人へプレゼントしたい、という注文に、エルメス傘下のメゾンであるビュイフォルカとのコラボレーションでこたえた。まるで彫刻のようにりんごをかたどったシルバーのケースを、レザーで覆ったもの。ストラップには携帯ナイフも収納可。15年前の作品だが、氏いわく「エルメスのアイデアの斬新さを象徴した、インスパイアリングな一点」

「驚くべきリクエストがたくさん寄せられるんですよ。ここで作るものは、単なる美しいオブジェではありません。その背後には大変な時間と労力が費やされており、そして何よりも気持ち込み込まれています。それぞれのアイテムは、一つのストーリーなのです」

こう語るのには、エルメス社のスペシャルオーダー部門、いわば「夢」実行委員会のデザイン責任者であるアクセル・ドゥ・ボーフォール氏。『エルメス』とはパリ郊外バンタンにある、元映画スタジオを改装した広々とした工房だ。この日、ある職人はスポーツカー「ブガッティ・シロン」の座席の革張りに取りかかり、また別の職人は、日本で展示するターニングの仕上げに奮闘していた。

さて、スペシャルオーダーの受注からデザイン、制作まではどんなふうに進むのか？ まずは、二つのカテゴリーに分けて説明しよう。一つは、顧客からの特注。受注では、ルールがないのがルール。ご要望が具体的な場合にはそれを傾聴し、よりよいご提案をします。受注はわれわれではなく、各店舗の担当者が受けるんですが、一方オリジナルティがありつつ素材やデザインの詳細が漠然としている場合は、アイデアが生まれた経緯を理解し、お客さまのスタイルや人柄を知

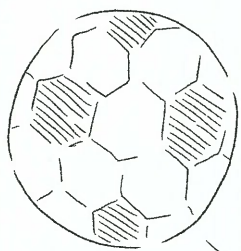
ることに努めます。ですから服装を描写し、写真を撮らせていただくこともあるのです。そして、エルメス社側のアイデアを提案し、デザイン画を描き、模型やサンプルを作る。レーザーやトワ

ルもストックの流用ではなく、それぞれのニーズに合わせた特別な仕上

ようこそ、エルメスの“夢”へ

顧客の夢やスタッフのアイデアをかなえた
ユニークなスペシャルアイテムの数々。

そして大プロジェクトで一から立ち上げたヨットをはじめ、車や飛行機といった乗り物まで。
歴史あるメゾンが、経験を積んだ最高の職人が、そのプライドをかけて取り組んだ仕事は、
用途に合った最高のデザインをまとう。夢のオブジェとなって見る者をも魅了する珠玉の宝物だ

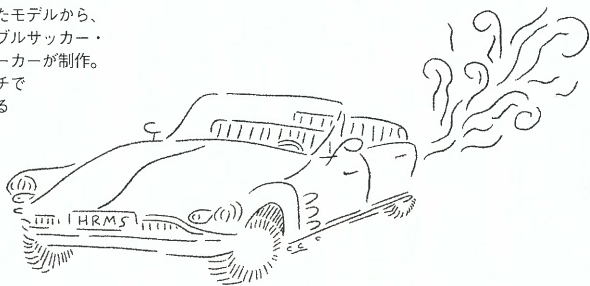


気持ちのいい青空の広がる休日に、
ピクニックへ出かけたいくなる
ふたつきのバスケット。
ビバリーヒルズ、ハンブルク、
マーストリヒトのスタッフの
アイデアから誕生したアイテム。
防水加工した柳素材と、なめらかな
カーフスキンのシックな
コンビネーションは、
ヴィンテージのような味わいと
上品さを醸し出す。
ピクニックバスケット
(H24.5×W50) ¥1,760,000 /
エルメスジャポン(エルメス)



Table soccer ©Chenit Gasp

遊び心あふれるテーブルサッカーは、
ジュネーブ店とフォーブル・
サントノーレ本店が企画し、
複数のアトリエが協力して
制作したアイテム。プレイヤーは
彫刻家のクリスチャン・
ルノンシアが手がけたモデルから、
フランス唯一のテーブルサッカー・
フィギュア専門のメーカーが制作。
オールレザーのピッチで
熱い戦いを繰り広げる

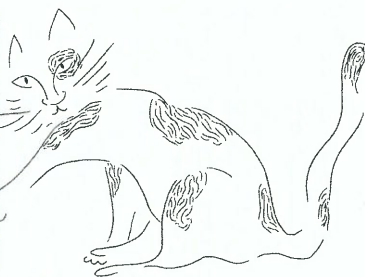


Aston Martin DB4 ©Chenit Gasp

C氏は、愛車のアストン・マーティンDB4の内装を依頼。DB4のオリジナルを思わせる、
レザー仕様のスペシャルな一台ができ上がった。シートはゴールド色のカーフで整え、
床はニュージーランド産のウールカーペットを敷き詰めて。C氏へのサプライズで、
トランクには消火器と傘が収納可能な専用スペースとファスナーポケットが施された



©Moores Van Tassel

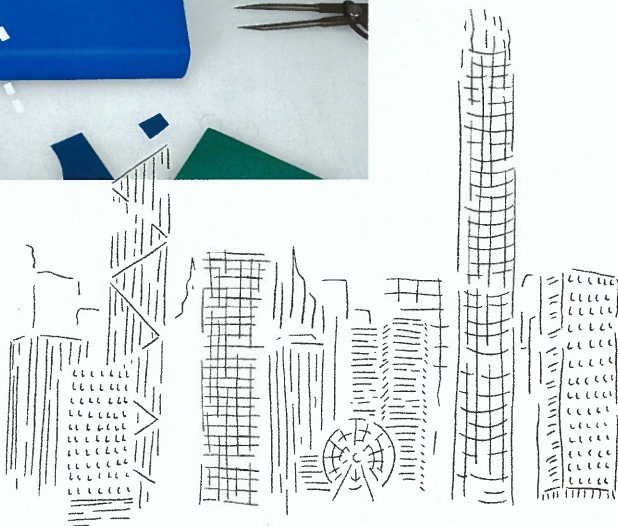


飼い猫と出かける際、
「マキシボックス」を愛用していた
マダムF。一番小さな子猫のために、
特別な「マキシボックス」をオーダー。
トワールH(コットンキャンバス地)と
ヴォー・スウィフト(カーフスキン)の
組み合わせで、ファスナーを開けると
左右が全開し、子猫が入りやすい
デザイン。猫の頭の形をした
開口部から子猫が頭や脚を
出すこともできる。いたずら好きの
子猫が遊ぶ姿が目に見えてくる



Sec & Maiores: © Oleg Chiriac

バッグ「マリス」の「ホンコン・バイ・ナイト」は、2018年に香港のランドマーク・プリンス店がリニューアルオープンした際に作られた、メモリアルなもの。約80のレザーパーツを組み合わせる、マルケトリー（象嵌細工）で描かれるのは、香港のゴージャスな夜景。素材はヴォー・スウィフトやリザードのレザーを使っている
※展覧会では異なる柄を展示予定

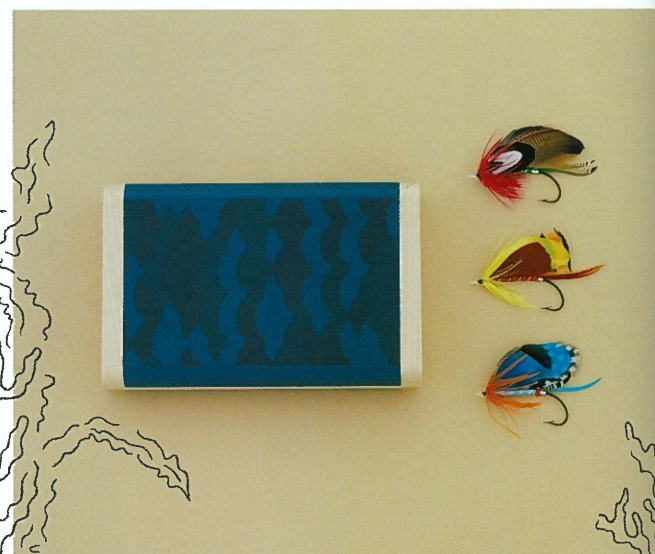


©Vincent Leroux

フランス式ボクシング（ボックスフランスーズ）は、護身術から進化した格闘技。趣味として楽しんでいるマダムDのために作られた専用のグローブは、一般的なボクシンググローブとは異なり、フォームはやや縦長。ルージュカラーのボディも、白いストリングも、しっかりとスムーズなヴォー・スウィフト製で、とてもラグジュアリー



釣り愛好家のフランス人職人が手がけたのが、フライフィッシング用のリネンファイバー製の竿。持ち手にはレザーが巻かれ、道具でありながら見た目にも美しいオブジェとして作られている。釣果を収めるバスケットは、柳細工の職人の手によるもので、編み上げるのにかかる時間はなんと20時間。フラップとショルダーベルトはレザー。釣り竿（250cm）¥1,070,000・フィッシングバスケット（H15×W30×D17）¥1,350,000／エルメスジャポン（エルメス）



名古屋のスタッフから浮かんだ理想の釣り道具のアイデアをもとに、パンタンのアトリエでさまざまなフィッシングアイテムが制作された。このフライ（毛鉤）やフライボックス、竿（左の写真）などもその一部。3つのフライはサーモン用で、メープル材のボックスの中にはマス用のフライが収められている。ボックスのふたは単色の濃淡のレザーを使ったマルケトリー仕上げ。フライボックス（H11×W16×D4）¥860,000（フライとセット価格）／エルメスジャポン（エルメス）



Jacob and Oak Bags: ©Hans Gou

スペシャルオーダー部門が、オーナーの依頼によりインテリアデザインを手がけた26mのボート。船内の部屋の家具やライティング、エルメスの家具用ファブリックがあしらわれた36枚のブラインドスラットに至るまで、一つひとつのディテールにクラフツマンシップが感じられる。ヨット制作は、ドウ・ボーフォール氏がエルメスに参加することになった契機でもある。※展覧会ではこのボートの展示はされない予定